平成 29 年度　新型インフルエンザ等対応訓練事例集

【患者移送の実動訓練】

事例１	千代田区	（感染症診療協力医療機関、民間救急、保健所）	※ブロック訓練
事例２	中央区	（感染症診療協力医療機関、民間救急、保健所 ）	※ブロック訓練
事例３	荒川区	（感染症指定医療機関、民間救急、保健所）	※ブロック訓練
事例４	江戸川区	（感染症診療協力医療機関、保健所）	※ブロック訓練
事例５	大田区	（感染症指定医療機関、保健所）	
事例６	練馬区	（感染症診療協力医療機関、保健所）	
事例７	足立区	（感染症診療協力医療機関、保健所）	
事例８	葛飾区	（感染症診療協力医療機関、保健所）	

事例－1　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（千代田区）【ブロック訓練】

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）日時

平成２９年１０月１９日（木曜日）午後２時から午後５時まで

（２）場所

感染症診療協力医療機関

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所、民間救急事業者

2　訓練の目的

新型インフルエンザ等が発生した際には、海外発生期から都内発生早期の間、保健所は相談センターを設置し専門外来への受診案内や一般相談に対応するとともに、感染が疑われる患者の疫学調査および検体搬送、患者の移送等を行い、感染症診療協力医療機関は専門外来を設置し、感染が疑われる患者の診察・検体採取、結果判明までの経過観察を行うこととされている。

保健所・診療協力医療機関・東京都等の役割及び院内における患者の動線の確認を今回訓練の第一の目的とし、今後の継続的な訓練実施につなげていく。

3　患者の概要

患者：千代田太郎（相談センターに相談）

属性：男性、47 歳、会社員（事務）、単身、千代田区在住、基礎疾患なし

直近の行動：7 日間 A 国に旅行で滞在し、昨日帰国。帰国前日まで現地のインフルエンザ様症状のある者との接触あり。

症状：昨日夜より 38.5℃の発熱、咽頭痛、関節痛あり。本日午後より症状悪化し、専門外来受診。受診時の体温 39℃。

4　訓練の流れ

【発生段階】国内発生早期（都内未発生期）

新型インフルエンザ相談センターによる受診案内→患者が感染症診療協力医療機関をウォークインにて受診→診察→検体採取→疫学調査→ウイルス検査の結果判明→民間救急事業者への移送依頼→患者移送

5　訓練参加人数

保健所（医師１名、保健師４名、事務等１０名）

感染症診療協力医療機関（医師３名、看護師２名、放射線技師１名、臨床検査技師１名、事務１名）

民間救急事業者（２名）

6　訓練に必要な物品

個人防護具、アイソレーター、陰圧テント、ビブス

7　準備に係る期間について

１か月から３か月未満

訓練実施風景

専門外来（※陰圧テント）がある感染症診療協力医療機関と受診調整

患者が感染症科看護師の誘導で専門外来（※陰圧テント）受診

患者を病院陰圧室に誘導

病院陰圧室
患者への積極的疫学調査

結果連絡後、患者移送可能な事業者の紹介依頼

民間救急事業者による
移送の様子

訓練で確認された事項

【感染症診療協力医療機関】

○　新型インフルエンザ患者発生時対応マニュアルの修正

○　病院の裁量事項等の整理、行政との連携内容のチェック

【千代田保健所】

○　成果：

・初めて病院と実施した訓練を通して、顔の見える関係づくりが出来た。また、新型インフルエンザ患者発生時は、保健所全体で対応するイメージを具体化することが出来た。

・シナリオ進行を進行係が説明し、見学者に分かりやすく伝えることが出来た。

○　今後の訓練の検討課題：

・新型インフルエンザの感染経路を考慮し、妥当な PPE、移送方法について関係機関と調整する必要がある。

・情報伝達訓練時、クロノロ（経時活動記録：大きなホワイトボードに、時系列メモ／対応者名を記載）の導入

・積極的疫学調査時、二次感染予防、患者への負担軽減、効率性等を考慮し、スマートフォン、タブレット端子等の活用

事例－2　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（中央区）【ブロック訓練】

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）日時

平成２９年１２月１日（金曜日）　午後１時から午後５時まで

（２）場所

感染症診療協力医療機関及び保健所

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所、民間救急事業者

2　訓練の目的

新型インフルエンザ国内発生時における、保健所及び医療機関の対応能力を高めるため各機関の役割や動きの検証を行い、新型インフルエンザ対策に反映させるものとする。

3　患者の概要

［場面１～６］患者Ａ

男性、30 代、会社員（事務）、家族と同居、中央区在住、既往歴や基礎疾患なし。

11 月 24 日に仕事でＹ国に行く。滞在中の新型インフルエンザ患者や体調不良者との接触歴は不明、11 月 30 日に日本に帰国。12 月 1 日明け方ごろより体熱感、咽頭痛が出現し、午前中様子をみていたが次第に悪化し、咳、関節痛等も出現し体温を測定したところ 38.7℃だった。専門外来で診察後、陰圧室待機中に意識消失、呼吸停止となったため気管挿管など救命措置を行い、救急集中治療室に入院。翌日遺伝子検査陽性となったため、感染症指定病院へ転院搬送。

［場面７］軽症患者のソフトアイソレーターを使用した車内移乗訓練。

4　訓練の流れ

【場面１】: 家族、患者が感染症診療協力医療機関に直接受診、専門外来（テント）へ誘導、診察

【場面２】: 診察の結果、保健所へアラート発生届提出。保健所は検査要件確認、遺伝子検査対象となる。

【場面３】: ぬぐい液受け取り、患者積極的疫学調査、濃厚接触者への健康観察説明。

【場面４】: 患者Ａ容態悪化。処置後、集中治療室へ入院となる。

【場面５】: 翌午前に遺伝子検査で新型インフルエンザ陽性が判明、発生届の提出、転院搬送調整。

【場面６】: 救急外来から緊急車両へ乗車し転院となる。

【場面７】: 軽症患者のソフトアイソレーターを使用した車内移乗訓練。

5　訓練参加人数

保健所（医師２名、保健師６名、事務４名）

感染症診療協力医療機関（医師２名、看護師７名、放射線技師１名、臨床検査技師１名、事務４名）

民間救急事業者（３名）

6　訓練に必要な物品

個人防護具、陰圧テント、DIF トランスバック、疫学調査用ビニール袋、咽頭ぬぐい容器、

検体搬入ボックス、ビブス

7　準備に係る期間について

３か月から半年未満

訓練実施風景

【場面１】専門外来（テント外来）へ移動。問診後、アラート発生届を保健所にＦＡＸ

【場面３】保健所保健師による積極的疫学調査と患者家族への健康観察説明

【場面４】患者の容態が悪化。救命処置後、救急部に緊急入院

【場面５】患者移送の情報伝達訓練（保健所内）

【場面６】重症患者の搬送

【場面７】軽症患者のソフトアイソレーターを使用した搬送（民間救急車両）

反 省 会 で の 主 な 意 見

【感染症診療協力医療機関】

○　初めての試みとして、集中治療を要する状況設定とした。

○　行政との連絡調整の場面が多いため、調整を要する事項やタイミングに関する院内のマニュアルが必要である。

○　移送中、ソフトアイソレーター内に患者が１時間近くいた場合は、患者に不安や圧迫感がないか心配になった。アイソレーターは集中治療を要する患者搬送には向かない。

【中央区保健所】

○　患者役としてアイソレーターに入ったが圧迫感があった。不安を和らげるために声掛けを行うと良いと思う。

【防災救急協会】

○　今回の訓練を見て、訓練の必要性を感じた。軽症の場合は、車いす型のアイソレーターが有効なのではないか。

【東京都】

○　ＰＰＥの着脱は２人一組で点検しながら実施するとよい。

事例－3　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（荒川区）【ブロック訓練】

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（1）　日 時

平成 30 年 1 月 1 8 日（木曜日）
午後 2 時 30 分から午後 4 時まで

（2）　場 所

感染症指定医療機関（都立駒込病院）

（3）実施機関

感染症指定医療機関（都立駒込病院）、保健所、民間救急事業者、警察署

2　訓練の目的

新型インフルエンザ都内発生早期において、都内で患者が発生することを想定し、感染症指定医療機関への患者の移送及び院内での受入れについて、実践的な訓練を行い、移送・受入体制の確認を行う。

3　患者の概要

患者：江戸太郎　30 歳　男性　独身
職業：貿易会社勤務
住所：荒川区
経過：5 日間 Y 国（新型インフルエンザ発生国）に滞在し、2 日前に帰国。
　　　4 日前に現地の有症状者との接触あり
　　　新型インフルエンザ専門外来に留め置き中
症状：38.5℃の発熱、咳、咽頭痛、全身倦怠感（状態は安定）

4　訓練の流れ

〇患者移送・受入れの実働訓練
- 感染症指定医療機関の感染症専用入口に、移送車両到着
- 感染症指定医療機関で患者を受入れ（病室への誘導、診察・検査）
- 病院職員の防護服脱衣
- 民間救急事業者の車両の消毒、防護服脱衣

5　訓練参加人数

保健所（医師１名、保健師１名、事務１名）

感染症指定医療機関（医師２名、看護師２名、検査技師１名、放射線技師２名、臨床検査技師２名、臨床工学技士１名）

民間救急事業者（２名）

6　訓練に必要な物品

個人防護具、アイソレーター

7　準備に係る期間について

３か月から半年未満

訓 練 実 施 風 景

移送車両を警察車両が先導

ソフトアイソレーターで患者を移送

診察・バイタルサイン測定・検体採取

胸部レントゲン撮影

鏡を見ながらＰＰＥを脱衣

参加者による訓練の振り返り

訓 練 で 確 認 さ れ た 事 項

【感染症指定医療機関】

〇定期的に訓練を行うことが必要だと感じた。（医師）
〇声掛けがなかなかできなかった。患者の不安緩和に努めたい。（看護師）
〇例年同様検体を扱った。簡易ガウンの扱いについて確認したい。（技師）
〇初めてフルタイプの個人防護具を着たが、脱衣が難しく、練習が必要だと感じた。レントゲン操作の機会があったらやってみたい。（放射線技師）

【荒川区保健所】

〇セパレートタイプの個人防護服を着用するのは初めてであり、貴重な経験をした。
〇ゴーグルは曇るので、フェイスシールドの方が良いと思った。

【民間救急事業者】

〇ソフトアイソレーターを乗せての訓練は初めてだった。実際は長距離を移送するため、安全性や換気等に注意する必要があると感じた。

【患者（役）】

〇アイソレーターに入っていると、外の人の声が聞き取りづらかった。

【警察署】

〇患者搬送のルートを確認することができた。動線の確保が大切だと思った。

事例－4　平成 29 年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（江戸川区）【ブロック訓練】

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）日時

平成２９年１０月２８日（土曜日）午後２時から午後４時まで

（２）場所

感染症診療協力医療機関

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所

2　訓練の目的

新型インフルエンザ対策として、区内で患者が発生した想定の下、専門外来を設置する訓練を実施する。この訓練を通じ、有事の際の対応力の向上及び区内関係機関の連携強化を図ることを目的とする。

3　患者の概要

患者①：２０代男性、単身。海外(新型インフルエンザ発生国)から帰国後 3 日目から 37℃台の発熱、咳嗽が続く。4 日目に心配になり近所のクリニックに受診。新型インフルエンザの可能性が示唆されたため江戸川保健所へ相談。専門外来での受診を指示された。指示でマスク着用の上、公共交通手段を利用し受診。

患者②：３０代男性、独身。　韓国在住、４日前に日本に入国。海外旅行中で日本に来る前に新型インフルエンザ発生国に１週間滞在。３日前より３８度台の発熱、咳嗽を認め無料インバウンドサービスに相談。サービス会社から保健所へ相談があり、マスクを着用の上専門外来受診を指示される。通訳者同伴で交通機関にて来院。男性は日本語をほとんど話せない。

患者③：４０代女性、海外(新型インフルエンザ発生国)から帰国後 3 日目から 38℃台の発熱、咳嗽、下痢が続く。4 日目に感染症診療協力医療機関に息子の運転する車で直接来院される。専門外来開設中であり、医師の判断により江戸川保健所へ連絡。専門外来受診となる。

4　訓練の流れ

(1)　区内において、新型インフルエンザを疑う患者が複数発生。江戸川保健所は感染症診療協力医療機関に専門外来の開設を要請。

(2)　病院職員が感染防御機材を準備し、専門外来を開設。患者を診察後、新型インフルエンザの可能性がある患者に対して検体採取し、PCR 検査の結果が判明するまで、専門外来にて経過を観察する。

5　訓練参加人数について

保健所（医師３名、保健師３名、事務６名、放射線１名）

感染症診療協力医療機関　25 名

6　訓練に必要な物品

個人防護服、音響設備、ビブス、陰圧テント、陰圧装置、検体容器、検体搬送用バッグ、アイソレーター

7　準備に係る期間について

３か月から半年未満

訓練実施風景

陰圧テントによる、専門外来を開設

専門外来に患者①が来院

専門外来に通訳者が同行の上、患者②が来院

専門外来に患者③が来院。新型インフルエンザ疑いのため、家族の診察も実施

患者③の検体採取を行い、保健所職員に引渡

患者③をアイソレーターとストレッチャーで待機室内に移動

訓練で確認された事項

【感染症診療協力医療機関】

○　連続して複数の患者に対応するにあたり、ＰＰＥの交換を行うか、一部の交換を行うか検討する必要がある。

○　今後は専門外来に多くの患者が訪れるケースや、さらに後の発生段階での訓練も検討する必要がある。

○　体温を測る場合には、非接触型の体温計等で行うとより良い。

【江戸川保健所】

○　家族同伴での来院や、外国人観光客等、現実に想定されるケースで訓練を実施することができた。

○　飛沫感染を意識し、検体採取の際は患者の正面ではなく斜め前に立つ、問診を横に並んで行う、簡易の衝立を利用する、モニターで遠隔診療を行う等の工夫についても検討が必要。

【地区医師会】

○　訓練の機会を活用して、個人防護具の着脱訓練を実施すると良いと思う。

【警察署】

○　周辺道路が狭いため混雑が予想される。交通規制が必要になる場合は協力したい。

【東京都】

○　都と区の情報連絡についても訓練に取り入れれば、より充実すると思う。

事例－5　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（大田区）

訓　練　概　要

1　**訓練の日時・場所・実施機関**

（１）　**日時**

平成３０年２月１４日（水曜日）　午後１時３０分から午後４時５０分まで

（２）　**場所**

感染症指定医療機関（東京都保健医療公社荏原病院）

（３）**実施機関**

感染症指定医療機関（東京都保健医療公社荏原病院）、保健所

2　**訓練の目的**

区内で新型インフルエンザが発生した場合にどのような対応をすべきかについて、手順の確認・検証

3　**患者の概要**

男性 19 歳、大学生、新型インフルエンザが流行しているＡ国へ観光目的で２月１日から 12 日まで滞在。２月 14 日に発熱（38℃）・咳嗽が出現したため、検疫所へ連絡。検疫所から大田区保健所へ連絡があり、電話聞き取りにより、新型インフルエンザ疑いと判断。

4　**訓練の流れ**

患者を自宅から感染症指定医療機関（荏原病院）へ保健所の搬送車で搬送→患者収容、アイソレーター消毒、申し送り→家族対応→保健所職員脱衣とストレッチャーの消毒→患者登録と検査指示→検査の実施→検体受け渡し→検査（心電図検査）→検査結果報告→防護服脱衣→結果報告

5　**訓練参加人数**

保健所（医師２名、保健師２名、事務等２名）

感染症指定医療機関（医師、看護師、事務、各複数名）

6　**訓練に必要な物品**

個人防護具

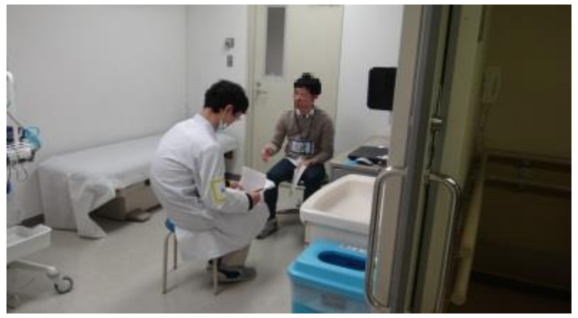
7　**準備に係る期間について**

１か月から３か月未満

訓 練 実 施 風 景

病院到着

アイソレーターへの移乗



患者家族への説明

検体受け渡し

訓 練 で 確 認 さ れ た 事 項

【訓練の振り返りで出された主な意見】

・防護服、手袋が破けたため、予備が必要であった。

・ゴーグルが曇り、視野の確保が困難だった。

・個人防護具着脱の流れについて、摺合せが必要であった。

・車椅子型アイソレーターを押しながらドアを開けるのは困難であった。

・病院医師への申し送りの際、病院医師はメモをとることができないので、申し送りの内容を紙面等で確認できるようにしたい。

【意見を踏まえた今後の対応】

・個人防護具について、ゴーグルのみであったが、今後はゴーグルとフェイスシールドを着用することとした。

・個人防護具着脱の流れについて、病院側と摺合せをする予定である。

事例-6　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（練馬区）

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）　日時

平成２９年１０月４日（水曜日）　午後２時から午後４時まで

（２）　場所

感染症診療協力医療機関

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所

2　訓練の目的

区内で第１例目の疑い患者が発生した際における、感染症診療協力医療機関と保健所との患者受入体制を確立するため、手順の確認と検証を行う。

3　患者の概要

男性 25 歳、会社員、単身、区在住、基礎疾患なし。

新型インフルエンザ流行国に一週間旅行で滞在し、帰国日の夜より 38.5℃の発熱、関節痛、咽頭痛。相談センターへ電話した後、保健所からの連絡待ちの間に症状悪化。呼吸苦、高熱のため自力で受診不可となり、保健所の移送車で疑い患者を搬送。

4　訓練の流れ

疑い患者より新型インフルエンザ相談センターに電話→保健所が感染症診療協力医療機関に受診調整→保健所の移送車で疑い患者を搬送→受診→診察→検体採取→患者を病棟へ移動→疫学調査（省略）→検査の結果陽性→民間救急事業者へ移送依頼（省略）

5　訓練参加人数

保健所（医師１名、保健師４名、事務７名）

感染症診療協力医療機関（２３名）

見学者（練馬区薬剤師会、他医療機関、消防署等　計１５名）

6　訓練に必要な物品

個人防護具、アイソレーター、ビブス、検体容器、検体搬送用ボックス

7　準備に係る期間について

３か月から半年未満

訓練実施風景

前提条件等の説明

新型インフルエンザ
相談センターの様子

病院内の情報伝達訓練の様子

診察・検体採取

患者を病棟へ移動

訓練後の意見交換・講評

訓練で確認された事項

【訓練の振り返りで出された主な意見】

・今回はシナリオに沿って対応できたが、実際に発生した時は、今回訓練に参加していない職員が対応することも想定される。保健所における初動体制についても、マニュアルの役割の確認、整理、保健所内の訓練の必要性を改めて再認識した。

・患者がアイソレーターに入り、医師がマスクを着用するとお互いの声が全く聞こえない等、課題が山積みであるので、今後さらに検証を重ねていく必要がある。

・新型インフルエンザのみならず、他の新興感染症についても保健所と情報交換し、感染症対策委員会で速やかに対応できる体制づくりが必要となる。

・患者の来院方法の違いによる案内方法、動線の確保を時間別（特に夜間）に検討すべきである。

・個人防護具の着脱は慣れていない看護師ばかりであり、普段から訓練が必要である。

【意見を踏まえた今後の対応】

・保健所の初動対応体制の見直し、初動要員ごとのマニュアル整備や訓練の実施

・保健所による患者移送方法の再検討

・例年開催する医療対策連絡会の内容強化

・他の感染症診療協力医療機関との患者移送受け入れ訓練の実施

事例-7　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（足立区）

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）　日時

平成２９年１０月１８日（水曜日）　午後２時から午後４時まで

（２）　場所

感染症診療協力医療機関

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所

2　訓練の目的

新型インフルエンザ都内発生早期において、区内で患者が発生することを想定し、下記の手順確認

- ・感染症診療協力医療機関での患者診察
- ・感染症指定医療機関への患者移送等について
- ・関係機関との連絡調整について
- ・アイソレーターの使用方法について
- ・個人防護具の正しい着脱方法について

3　患者の概要

女性 20 代、学生ボランティアで海外から帰国後、下痢・発熱があり、市販薬を服用していたが、来院２日前から 40.5℃の発熱、呼吸困難等の症状があり、同じ大学の寮で生活している友人の同伴で来院。（徒歩、タクシー、自家用車等の設定はなし。）

4　訓練の流れ

患者が感染症診療協力医療機関を受診→診察→保健所へ疑い例報告、連絡票提出→東京都へ疑い例発生報告、健康安全研究センターへの検体搬入確認→病院へ検体採取依頼→検体受け取り、健康安全研究センターへ搬入→ウイルス検査の結果判明→発生届提出→指定医療機関への患者移送連絡、移送業者への依頼→患者移送準備（個人防護具着用訓練含む）→患者移送→個人防護具脱衣訓練

5　訓練参加人数

保健所（医師１名、保健師２名、事務２名）、

感染症診療協力医療機関（医師１名、看護師５名、レントゲン技師１名、事務３名）

6　訓練に必要な物品

アイソレーター、個人防護具、ビブス

7　準備に係る期間について

１か月から３か月未満

訓練実施風景

感染症診療協力医療機関での診察

感染症指定医療機関への患者移送

訓練で確認された事項

【訓練の振り返りで出された主な意見】

- ・各部署との連携を図ることができたので大いに活かすことができる。
- ・感染拡大を防ぐための設備が十分でなく、また準備のためのコスト負担が大きい。（陰圧設備等）
- ・疑い時点で待合室を分ける、その場で迅速検査する等の対応が非常に参考となった。
- ・通常診療患者と動線がクロスしていた。
- ・正確な個人防護服の着脱方法はためになった。

【意見を踏まえた今後の対応】

- ・訓練実施医療機関で定期的な訓練の実施、マニュアルの作成について検討が必要となる。
- ・訓練実施に際し、動線や患者の隔離体制についても院内で検討を要する。
- ・設備については、病院ごとに事情があるため、都度情報提供を行う。

事例-8　平成29年度新型インフルエンザ患者発生時対応訓練（葛飾区）

訓　練　概　要

1　訓練の日時・場所・実施機関

（１）　日時

平成２９年１２月７日（木曜日）　午後１時から午後４時まで

（２）　場所

感染症診療協力医療機関

（３）実施機関

感染症診療協力医療機関、保健所、区危機管理部門

2　訓練の目的

新型インフルエンザの都内発生早期において、区内で患者が発生することを想定し、新型インフルエンザ専門外来（感染症診療協力医療機関）の疑い患者の受け入れ及び感染症指定医療機関への患者搬送について、実践的な訓練を行い、連絡・搬送体制の確認を行う。

3　患者の概要

男性 30 歳、独身、区居住、貿易会社勤務

５日間新型インフルエンザ発生国に滞在し、２日前に帰国。３日前に現地の有症状者との接触あり。

38.5℃の発熱、咳、咽頭痛、全身倦怠感（状態は安定）。

4　訓練の流れ

感染症診療協力医療機関を受診→診察→ウイルス検査→陽性→感染症指定医療機関へ搬送

5　訓練参加人数

保健所（医師１名、保健師３名、事務等２名）

感染症診療協力医療機関（医師２名、看護師４名、検査１名、放射線技師１名、事務等５名）

6　訓練に必要な物品

個人防護具、ソフトアイソレーター、ホワイトボード及びパーテーション（情報伝達訓練）

7　準備に係る期間について

１か月から３か月未満

訓練実施風景

感染症指定医療機関へ患者を搬送する様子

訓練で確認された事項

【訓練の振り返りで出された主な意見】

〇情報伝達訓練

- 具体的に発生した状況レベルを想定し、各レベルに応じた広報や区民対応の準備が必要
- 保健所内の役割分担と想定準備が必要
- 保健所と区の危機管理部門等の関係部署との情報共有や連携の体制が必要
- 区の中枢部、区議会、マスコミへの情報提供と情報管理

〇患者受入訓練

- 個人防具服やソフトアイソレーターの取扱いに習熟しておく必要がある
- 患者移動の動線を想定

〇疫学調査訓練

- 個人防護服の着脱の習熟が必要
- 感染区域に持ち込む記録用紙等の取扱いの一定の基準が必要

【意見を踏まえた今後の対応】

〇情報伝達訓練

- 保健所と区の危機管理部門と発生時の情報共有及び伝達について検討・調整をする

〇患者受入訓練

- 個人防護服の着脱訓練、ソフトアイソレーターの使用訓練等を定期的に行う
- 訓練のポイント、改善に向けた経験者の意見の蓄積
- 物品管理（個人防護服等）の工夫